

令和5年度 諫早市立諫早小学校 学校経営方針

自律

意識改善

1 基本方針

学校教育は、どんなに将来の変化を予測することが困難な社会にあっても、直面する課題に対し自らの力を駆使したり、他者と協働したりしながら課題解決を図ることができる、所謂「生き抜く力」を有した子どもの育成に努めなければならない。

そのために、家庭・地域社会と連携し、全職員が一致協力して、学校の教育目標の具現化に努め、諫早小学校の教育振興と学校の社会的責任を果たさなければならない。

2 教育目標

創造的な実践力に富む、心豊かで、たくましい子どもの育成

～ 豊 かな 子 ～

3 学校像、子ども像、教師像

(1) 学校像

- 礼儀正しい、心豊かなふれあいのある学校
- 主体的に学び、学力の向上を目指す学校
- 健康と体力の充実を目指す学校

(2) 子ども像（豊かな子）

- 明るく、思いやりのある子 “明るさ・思いやり”（徳）
- 夢に向かって、自ら学ぶ子 “自ら学ぶ”（知）
- 身体を鍛え、最後までやりぬく子 “最後までやりぬく”（体）

(3) 教師像

- 人間性豊かで、愛情あふれる教師
- 絶えず研鑽に励み、子どもと共に学び育つ教師
- 明朗健康、仕事に喜びと生きがいを感じる教師

4 重点努力事項

「生きた学び」と“徹底・継続、協働”で、『豊かな子』を育てる！

(1) 生きた「学力」「学習習慣」「意欲・態度」を育てる指導

① 育てたい資質・能力を意識した指導の徹底

※本校における人間性

- ・自己理解と自己肯定
- ・自然や生命など崇高さへの理解
- ・自他の尊重
- ・身の回りのことを自分でする（自立）
- ・規範にしたがって行動する（自律）
- ・協働のためのコミュニケーション（自己内対話・他者との対話能力）

② 生きた「学力」「意欲・態度」を育てる授業

授業においては、「育てたい資質・能力（本校における人間性）」を意識し、一人一人を活かすことに努め、小学校6年間の学習における習得内容と関連付けながら、当該学年での学習内容において、単元全体を俯瞰し、課題やめあてを設け、解決に向けて思考・判断する場面、考えを表現し合う協働の場面を設定する（「深い学び」の実現）。

○単元構想の充実（指導効率を考えたマネジメント）

○問題解決的学習の推進

○思考、表現の場を単元の中に明確に位置付ける（ディスカッション、体験・実演、他に教える等）

○自己評価の重視

③ 生きた「学習習慣」「意欲・態度」を育てる取組

当該学年、教科等において習得すべき知識・技能の確実な定着を図る取組を行う。また、自学・自習をする方法や内容を適切に指導するとともに、家庭と連携し家庭学習や自主学習の習慣化を図る。（学びの習慣化）

④ 生きた「学力」「読書習慣」を育てる取組

授業や業間における学校図書館の活用、家庭読書の勧め等により、読書量を伸ばし、文字・活字、読み取りに慣れさせることで、語彙力を高め、文章読解力や表現力といった生きた「学力」の支えとなるものを育てる。

⑤ 総合的な学習の時間の充実

○探究的活動を保障

○単元構想の充実（教科横断的学習）

○地域人材の活用

⑥ 基礎体力（健康）の向上を重視した体育授業の充実

○体づくりの運動の充実

○運動量の確保

○自ら安全を意識し行動する授業

（2）教育的愛情を基盤に据えた指導や支援 “徹底・継続”

① 年間を通じて全教育課程において人権・平和、道徳教育に取り組むとともに、命を大切にし、互いを大切にする好ましい人間関係を育てる。

○重点指導事項について、指導時期、各教科等との連携等を検討し、指導効果を高める

○多面的・多角的思考のある授業の実現

○家庭との連携（毎月19日 道徳ノートの持ち帰り）

○人権意識の涵養

・自他を尊重する心情・態度の育成

・言語環境の改善

② 一人一人の居場所があり、居心地の良さを感じることのできる支持的風土のある学級集団づくり（学級経営）を目指す。

- 自己肯定感（自尊感情）を大切にした指導
- 規範意識の高揚
- 認め合う学級（学年）集団の育成
- 子どもに語りかける構え（子どもの夢や希望、あこがれを育てる）
 - ・キャリアパスポートの有効活用
- ③ 心が通い合うあいさつや言葉遣い、他を思い心を磨く無言清掃や履物並べなど、平凡だが将来必要となる素養を身に付けさせる取組を徹底指導する（凡事徹底）。
 - 家庭と連携した基本的生活習慣の定着
 - ・早寝、早起き、朝ごはん・メディア
 - 保健衛生指導やコロナ対応の徹底
 - ・手洗い、うがい、消毒、マスクの携行等
 - 食の自己管理能力や食事マナー指導の徹底
- ④ 子どもの主体的・自治的活動を促進する
 - 学級会活動等の自治的活動の充実
 - 子どもに任せる場を作る
 - 「仕掛け」で育てる
- ⑤ 特別支援教育や子ども理解の充実（特別支援教育と生活指導の連動）
 - 配慮を要する子どもの情報の共有（全職員共有）
 - ・可能な限り指導観の共有を図る
 - ・迅速かつ慎重な家庭連携（校内教育支援委員会等）
 - 全職員による研修の継続
 - 家庭や地域に対する特別支援教育についての啓発継続

(3) 諫小職員としてチーム一丸となった校務運営 “協働”

- ① 協働体制の構築と組織力の向上を図る
 - 学年主任、分掌主任を中心にした連携（一人にしない、させない）
 - 一貫性のある教育活動の徹底（付けたい資質・能力を目指した教育実践）
- ② 教育公務員としての自覚と誇りを持ち、使命感の向上を図る
 - 不祥事根絶に向けた圧倒的当事者の意識
 - 保護者・地域は「教育上のパートナー」
 - ・日常の信頼関係づくりに努める
 - ・家庭への連絡は、明確に必要最小限を徹底
 - 市民目線、保護者目線での学校・学級運営
- ③ 2学期制および施設の利点を生かした教育活動の推進
 - 学校行事や体験活動のさらなる充実
 - オープン教室の効果的活用

④ 家庭・地域連携の一層の充実

○学校関係者評価委員会、ひあしっ子育成事業実行委員会との連携強化

- ・通学路安全点検

- ・頌徳祭、レッツエンジョイ 151

○幼保小・小中連携の強化とスタート・カリキュラムの改善

○面談の充実（I-check データと指導実態）

○学校情報の適時発信（説明責任）

⑤ 働きやすい職場づくり

○諫小の一員としての自覚と積極的相互支援

○働き方改革の推進

- ・業務内容および取り組み方の改善

- ・目標：超過勤務時間 45 時間／月（年間 360 時間／年）以内